

# 日本認知言語学会第14回全国大会プログラム 【1日目】

9月21日(土) 受付 9時30分から(1号館5階にて)

		第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室
		1号館151	1号館161	1号館162	1号館163	1号館164	1号館171
ワークショップ	10:00   12:20	<p>&lt;テーマ&gt; 場の理論と日本語の文法現象</p> <p>○岡 智之(東京学芸大学)・新村 朋美(フリー)・櫻井千佳子(武蔵野大学)・小柳 昇(東京外国語大学)・大塚正之(早稲田大学)・デイス カッサント:中村芳久(金沢大学)</p>	<p>&lt;テーマ&gt; 百科事典的意味観の射程</p> <p>○初山洋介(名古屋大学)・李 澤熊(名古屋大学)・野田大志(東北学院大学)・梶川克哉(名古屋SKY日本語学校)</p>	<p>&lt;テーマ&gt; 会話中の文法と認知—相互行為言語学のアプローチ—</p> <p>○遠藤智子(日本学術振興会・京都大学)・横森大輔(日本学術振興会・名古屋大学)・下谷麻記(関西外国語大学)・杉浦秀行(茨城大学)</p>	<p>&lt;テーマ&gt; 認知における二元性:言語を中心とした学際的視点</p> <p>○Marina Shchepetunina(大阪大学)・Daria Vinogradova(大阪大学)・豊田純一(国際基督教大学)</p>	<p>&lt;テーマ&gt; Corpus-based approaches to English adjectives: Meaning, grammar, and sound</p> <p>○渋谷良方(京都外国語大学)・木山直毅(大阪大学[院])・Kim Ebensgaard Jensen(Aalborg University)・Willem Hollmann(Lancaster University)</p>	<p>&lt;テーマ&gt; 認知文法における事態叙述の在り方—「事態」をどのように概念化するか—</p> <p>○町田 章(広島大学)・南 佑亮(神戸女子大学)・田村幸誠(滋賀大学)・對馬康博(札幌大学)</p>

昼食休憩(12:20~13:20)

**開会挨拶 (13:20~13:30) 会場: 7号館4階741 中ホール**

<p style="text-align: center;"><b>特別講演</b> (13:30~15:30) 会場: 7号館4階741 中ホール</p>	<p>講師: Raymond W. Gibbs, Jr. (University of California, Santa Cruz) 司会: 辻 幸夫 (慶應義塾大学)</p> <hr/> <p>演題: Metaphor Wars: Conceptual Metaphor in Human Life</p>
--	---

**総会 (15:30~15:45) 会場: 7号館4階741 中ホール**

		第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室
		1号館151	1号館161	1号館162	1号館163	1号館164	1号館171
<b>司会</b>		篠原和子 (東京農工大学)	都築雅子 (中京大学)	秋田喜美 (大阪大学)	大瀧幸子 (金沢大学)	井元秀剛 (大阪大学)	大橋浩 (産業医科大学)
<b>第1発表</b>	16:00   16:35	①“Over revisited - A corpus-based phraseological approach to the semantic network of the preposition”鎌倉 義士(愛知大学)	①「産出物を伴う結果構文の認知構造」貝森有祐(東京大学[院])	①「感覚・心理を表すオノマトペの多義性とその動機づけに関する考察」陳 帥(名古屋大学[院])	①「(流動体)のメタファーに関する日中対照研究—(言葉)という目標領域を例に—」韓 濤(名古屋大学[院])	①「情報の部分性と全体性—フランス語の『中継の現在形』を巡って」岸 彩子(青山学院大学[非常勤])	①「複合動詞V渡る」の意味—メンタル・スペースの観点から—」森 博(東京大学[院])
<b>第2発表</b>	16:35   17:10	②“Cognitive perspectives on spatial proximity and expression of time”豊田純一(国際基督教大学)	②「談話標識 I mean の使用原理についての認知言語学的考察」小林 隆(金沢大学[院])	②「共感覚表現と「五感」の問題について—触覚に関する表現を中心に—」大谷友也(大阪大学[院])	②「プロフィールの反転にみられる意味役割の切り替え—中国語の結果構文を例に—」楊 明(東京国際ビジネスカレッジ)	②「フランス語に訳されない英語の移動動詞—英語動詞walkの翻訳を題材に—」出水孝典(神戸学院大学)	②「「間主観性」再考—日本語の「そいえば」をケーススタディに」山田彬堯(東京大学[院])
<b>第3発表</b>	17:10   17:45	③“The interplay between lexical polysemy and cultural model”Chiarrung Lu (National Taiwan University)	③「文末表現としての「〜たい考えだ」」大西美穂(名古屋短期大学)	③「擬態語・擬情語の動詞化に関する分析—反復形オノマトペ「する」動詞の頻度をもとに—」菅原 崇(岐阜工業高等専門学校)	③「中国語の新型自動詞受動表現「被自殺」について—使用基盤モデルの視点から—」李 麗萍(東北大学[院])	③「フランス語の「怒り」に関するメタファー表現・オニミー表現—類型論的研究を通して—」治山純子(慶應義塾大学)	③「間主観性、および行為と意図のオニミー関係からみた行為解説の進行形」清水啓子(熊本県立大学)

**懇親会 (18:10~20:10) 会場: 12号館LIBRE**

※1日目・2日目ともに、1号館6階にて書籍展示を行います。

# 日本認知言語学会第14回全国大会プログラム 【2日目】

9月22日(日) 受付 9時10分から (受付は1日目に受付を済まされていない方だけで結構です)

		第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室
		1号館151	1号館161	1号館162	1号館163	1号館164	1号館171
<b>司会</b>		菊田千春 (同志社大学)	高橋英光 (北海道大学)	大月実 (大東文化大学)	徐珉廷 (昭和女子大学[非常勤])	荒川洋平 (東京外国語大学)	川島嘉美 (石川工業高等専門学校)
<b>第1発表</b>	9:30   10:05	④“The Information Status of English Relative Constructions by Japanese Speakers: A Comparison Between Spoken and Written Languages”奥切恵 (東京医療保健大学)	④「フレーム化類型論における意味的焦点について—機能主義的アプローチ—」斎藤珠代 (東北大学[院])	④「「晴れる」と「曇る」のメタファーの意味的表現」松浦光 (名古屋大学[院])	④「認知的変化表現」の意味と認知的基盤—ある種の主観的な変化叙述における表現主体の視点の影響—」大神雄一郎 (大阪大学[院])	④「指示詞習得における二系の優位性—注意喚起語としての二系と尺度推意—」平田未幸 (北海道大学[院])	④「英語不変化詞downにおける主体化—「下がる」から「遠ざかる」への意味拡張—」濱上桂菜 (大阪大学[院])
	10:05   10:40	⑤““Missing” arguments - Towards a cognitive account of argument structure phenomena in Japanese V-V compound (VVC)formation” Aron Wittfeld (京都大学[院])	⑤「着衣表現から見る客体移動表現の類型論」伊藤彰規 (神戸大学[院])	⑤「「おいしい」「うまい」「まずい」の意味分析再考—フレーム意味論に基づく意味拡張分析に関する一考察—」阪口慧 (東京大学[院])	⑤「韓国語母語日本語学習者の事態把握—日韓対照言語調査の結果から—」近藤安月子 (東京大学大学院・姫野伴子 (明治大学)・足立さゆり (白百合女子大学))	⑤「日本語を第二言語とする幼児の疑問語使用の否定表現の習得プロセス—用法基盤モデルのジボット・スキーマを援用して—」橋本ゆかり (横浜国立大学大学院)	⑤「見込みの有無に関する表現の意味理解とその動機づけ—英語における“a slim chance”と“a fat chance”—」有光奈美 (東洋大学)
10分休憩							
<b>司会</b>		森貞 (福井工業高等専門学校)	森山新 (お茶の水女子大学)	野呂健一 (高田短期大学)	尾谷昌則 (法政大学)	堀田優子 (金沢大学)	守屋哲治 (金沢大学)
<b>第3発表</b>	10:50   11:25	⑥「カテゴリー帰属を表すヘッジ表現の働き—名詞修飾表現の考察を通して—」梶原彩子 (名古屋大学[院])	⑥「認知言語学的観点による格助詞・準代名詞の「の」の研究—参照点機能とグラウンディングに注目して—」城野大輔 (東京学芸大学[院])	⑥「日本語の空間名詞「上・下」が表す空間について」安在珉 (京都大学[院])	⑥「音便形複合動詞の意味とV1の意味的・形態的連続性」史春花 (神戸大学[院])	⑥「日本語の文理解方略としての視座の転移 displacementとグラウンディングgrounding」島映子 (昭和女子大学[院])	⑥「意味変化における一方向性の再考—英語独逸副詞の脱語彙化とその後の展開—」小笠原清香 (立教大学[院])
	11:25   12:00	⑦「言語習得データから日本語名詞修飾節を考える—フレーム意味論の観点から—」大関浩美 (麗澤大学)	⑦「格助詞「に」の多義性に関する認知的考察—通時的考察を基盤に—」中田瑞枝 (金沢大学[院])	⑦「空間的分布を表す時間語彙の分類—時間を表す副詞類との関係考察—」寺崎知之 (同志社大学[非常勤])	⑦「「～中」の意味と連濁の関係について」高橋勝志 (京都女子大学)	⑦「語りに伴う抽象的な身振り—語りの構成・展開との関連に焦点を当てた事例研究—」名塩征史 (北海道大学)	⑦「再帰的他動詞の意味拡張をもたらす認知機構について—「巻き添えを食う」のはなぜなのか—」大石亨 (明星大学)

昼食休憩 (12:00～14:00 ポスターセッションを含む)

<b>ポスターセッション</b>	12:30   13:30 (14件同時進行/全て1号館)	1号館7階ロビー	「重複語の有契性:言語類型論の視点から」宮川創 (京都大学[院])	「認知言語学的な日本語テキスト分析用ワークベンチの提案」笹野昌一 (富士ゼロックス株式会社)	「参与者間における共通基盤に不足がある場合の会話に関する一考察」諏訪野亜美 (北海道大学[院])	「視覚情報からの特定の読みの強化—素朴な直感から科学的議論の対象へ—」斎藤幹樹 (京都大学[院])	「接頭辞 un- の意味構造: 名詞を基体にするパターンに注目しながら」浜田啓志 (慶應義塾大学[院])	「<見立て>: 送り手と受け手の間での意味創出の営み—文化記号論の試み—」池上嘉彦 (東京大学名誉教授)、山口富蔵 (フリー)、守屋三千代 (創価大学)、Tekmen, Ayse Nur (アンカラ大学)、百留恵美子 (国立高雄第一科技大学)、百留康晴 (島根大学)
		1号館165	「“心的距離感”の概念を用いた仮定法表現の指導法—学習英文法への認知言語学の応用—」中川右也 (米子工業高等専門学校)	「空間前置詞の選択に関わる要因」遠藤雪枝 (清泉女子大学/慶應義塾大学[院])	「認知言語学の視点を含んだ英語教育の特長と考慮を有するべき点を整理する—コアを具体例として言語学的/教育的健全性をキーワードに—」藤井数馬 (沼津工業高等専門学校)	「認知言語学及び教科開発学の観点から言語教育におけるダイナミズムと多様性の扱いを考察」今井 隆夫 (愛知みずほ大学他[非常勤])		
		1号館166	「「テシマウ」形式の意味再考—アスペクトの意味と話者の感情・評価との競合について—」張又華 (京都大学[院])	「禁止を表す「Vテはいけない」と「Vていけない」への一考察」○黄愛玲 (台湾国立高雄第一科技大学)、葛西洋三 (實踐大学)	「日本語助動詞とタイ語類別詞の対照から見るモノの捉え方の違い—日本語助動詞「本」の意味拡張をベースに—」伊藤あゆみ (北海道大学[院])	「日中における持ち主の受身の表現方法の違いについて—認知類型論的立場からの考察—」黒田弘美 (南山大学[院])		

<p style="text-align: center;">シンポジウム (14:00～16:40) 会場: 7号館4階741中ホール</p>	<p style="text-align: center;">テーマ: 認知言語学とコーパス研究</p> <p>司会・講師: 李 在鎬 (筑波大学) 講師: 赤野一郎 (京都外国語大学)、中本敬子 (文教大学)、ブラジャント・バルデン (国立国語研究所)</p>
--	---

閉会挨拶 (16:40～16:45) 会場: 7号館4階741 中ホール